

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 光ヶ丘の里
(ユニット名)	グループホーム 光ヶ丘の里 2階
所在地 (県・市町村名)	千葉県柏市光ヶ丘2-25-41
記入者名 (管理者)	金子 一子
記入日	平成 20年 10月 31日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	地域の方々には、まだ十分に理解して頂けていないと思われるので、地域の方々と交流する際に話をするようにしていく。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	11月に行われる近隣町会合同の運動会に参加する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町会長や民生委員の方に、独居の高齢者や話し好きな方、またはホームを見学したいという方がいれば、「気軽に来所してください。」と話を頂くようお願いしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価事項を可能な限り改善・実施するように努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況などについて報告や話し合いを行い、そこでの意見を取り入れていくようにしている。	○	地域包括支援センターの職員にお願いし、近隣の保育園と交流ができるよう話を頂いた。 近いうちに、園長と直接話をする予定である。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	柏市グループホーム連絡会にて、柏市役所担当者から指導を受けたり、連絡を密に行うようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在は、成年後見制度を利用している方がいないが、以前利用していた方がいた際に、管理者及びスタッフが権利擁護に関する制度について学ぶ機会を設けた。	○	今後、必要な方には、制度を活用できるよう支援していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティング時に虐待防止などについて話をしている。 また、コンプライアンスルールを掲示している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	w	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見や苦情を訴えてきた時は、個々に話を聞くようにし、解決策が必要な場合には、ミーティング時に話し合うようにしている。 また、月に1回柏市より介護支援相談員が訪問し、利用者の話を聞いている。その際、利用者からの意見・苦情などがあった場合は、管理者に報告がある。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や電話にて話をしたり、書面を郵送し、生活状況などを報告している。 家族の事情により面会回数の少ない方には、定期的に電話で報告している。 スタッフの異動等については、家族へ定期的に就業スタッフ一覧を渡している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情に関する窓口は、契約時に入居者家族へ書面と口頭にて説明している。また、入口付近に相談窓口の連絡先を掲示している。 面会時に家族の意見を聞き、その意見についてミーティング時に話し合いをしている。 また、年1回家族会を開催し、家族同士が意見交換をする機会を設けている。	○ 重大な苦情が寄せられたことはないが、今後そのような事があった場合には、前向きに対処していく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各スタッフから意見や提案を聞き、スタッフ全体で話し合い、問題点・疑問点について運営者と相談し、可能な限り反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者・計画作成担当者が家族の要望や利用者の状況などに合わせて柔軟な対応ができるように、勤務の調整をしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフが離職し、新しいスタッフが勤務する場合は、入社後数日間は管理者や指導者として相応しいスタッフが指導し、通常より1人多い態勢でシフトを組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、管理者やスタッフが法人外の研修を受ける機会を確保している。また、ホーム内で介護に関する勉強会を開いている。</p>	<p>○ 段階に応じて育成するため、今後マニュアルを作成していきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>柏市グループホーム連絡会主催による研修会や勉強会、交流会などに管理者やスタッフが参加し、研修会・勉強会の内容や意見交換などを参考にしながら、サービスの質を向上させるように努めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>柏市グループホーム連絡会主催による交流会などに参加するように勧めている。 年に1回、運営者・管理者・スタッフが参加する忘年会または新年会を開いている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、管理者やスタッフ個々の努力や勤務状況・実績を把握し、給与・昇給などに反映させ、各自が向上心を持って働けるように努めている。 また、個々のスタッフが向上心を持って働けるように、毎月実績・勤務状況を評価し、達成給を支給している。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の面接時・入居後に、本人自身から困っていること・不安なこと・求めていること等の内容を聞き、その内容をきちんと受けとめるように努め、信頼関係が築けるように努力している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の見学・面接時に家族等から困っていること・不安なこと・求めていることの内容をよく聞き、きちんと受けとめられるように努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や担当ケアマネージャーと相談し、一番必要としている支援がグループホーム内での介護かどうか検討し、他のサービスの方が良いと思われる場合は、そちらのサービスの利用を勧めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人がホームへ遊びに来られる場合は、数回来て頂いてから、サービスを開始している。入居当初は家族にできるだけ面会に来ていただけるようお願いしている。本人が安心・納得した上でサービスを利用し、他の利用者との交流が円滑にできるようにスタッフが配慮している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 スタッフは、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に笑ったり、泣いたり、お互いに支えあう関係を築けるように努力している。また、利用者から料理方法を教えていただくなどしている。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 スタッフは、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは、家族から本人に対する悩みを聞いたり、本人にとってどのような支援が一番良いかを相談したり、お互いに助け合いながら本人を支えている。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と利用者それぞれから話を聞き、利用者や家族との今までの関係を理解し、更に良い家族関係が築けるように支援している。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が日頃行きたいと言っている所(お墓参りや買い物)を家族に伝え、家族又はスタッフが連れていくようにしている。また、本人が友人へ電話をしたり手紙を出したり出来るように支援している。知人が面会に来る利用者の方もいる。	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	スタッフが利用者の一人ひとりの性格を把握し、利用者同士が良い関係を築けるように配慮している。利用者同士の話が弾むようにスタッフが間に入り話をしたり、数人の利用者やスタッフとで家事を行ったりしている。また、家事が好きな利用者の方が多いので、トラブルが起きないようにスタッフが配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	○	日々、心身状態が変化する利用者があるので、特に入浴・外出・家事等をする前に、必ず個々の利用者の状態を確認している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は、毎日細かく記入している。また、ケアプランの実践のチェック表を作成し毎日記入するようにしている。特に状態に変化がある利用者については、行動記録表を作成している。それらをケアプラン作成の資料としている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面会時間外の面会など、家族の要望に応じて柔軟な対応をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人と家族の要望により、月2回書道の講師ボランティアに来て頂いている。町内会の踊りや歌の会のボランティアに来て頂いている。	○	近隣の保育園と交流できるように話を進めている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在他のサービスの利用はしていない。グループホームを退居することになった場合は、他のサービスを利用するための支援を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員に運営推進会議へ参加して頂いたり、相談に乗って頂いたりといった連携を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が通院介助を行っている場合は、ホームで作成した現在の状態についての報告書を医師に渡して頂いている。この場合、スタッフが医師と電話で話をしたり、直接話をしている。また、2週間に1回往診の医師が来ているので、家族や本人が往診を希望する場合には、診察を受けられるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対して、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように心掛けている。また、個人記録等の取扱いには、細心の注意を払っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が気持ちを表せるような働きかけをし、自分で決められることは自分で決めてもらうような支援をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を最優先に考え、その日一日のプランをつくるようにしている。	○ 外出・入浴・家事等を行う際、拒否をする利用者もいるが、拒否があった時には利用者の希望に沿った支援をするようにしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者自身が選んだ洋服を着たり、スキンケア用品も本人の使いなれたものを使用している。また、定期的に訪問理容が来ており、希望者が利用している。	○ 洋服やスキンケア用品は、利用者自身が直接選び購入している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを決める段階から利用者と相談している。調理や後片付けなどは、希望する利用者がスタッフと一緒にいる。また、食事はスタッフも一緒に食べるようにしている。	○ 調理や後片付けなどをしたいと希望する利用者が多いので、特定の利用者のみ行うことのないよう、スタッフが配慮している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒や夜食等は、家族と相談して決めている。個々の生活スタイルに合わせて支援するようにしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が家族や友人への電話をしたり、手紙を出したりできるように支援している。文章や字をうまく書けない場合にはスタッフが代筆したり、電話の際スタッフが代わりにダイヤルする等している。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	夜間・早朝以外は門・玄関に施錠せず、気軽に訪問してもらえるようにしている。面会時間以外に訪問したいという家族には、事前に電話連絡をお願いし、面会時間外の訪問ができるように配慮している。 利用者の知人・友人の中には、よく面会に来てくれる方もいる。	
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束研修を受けたスタッフが他のスタッフにその内容を説明している。また、具体的な例を明記してある資料を掲示し、身体拘束をしないケアの実践を常に意識するように指導している。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間・早朝は玄関に施錠しているが、日中は鍵をかけないケアをしている。 居室は利用者の希望により鍵をかける場合があるが、スタッフが見回りをする際、合鍵を使用して入室している。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ユニットごとに、日中は3人・夜間は1人の職員がおり、利用者の所在や様子を把握するように努めている。(特に夜間帯など)緊急時には、すぐに他のスタッフに連絡をし、ホームへ駆けつけるようにしている。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態や家族の要望に応じて、注意の必要な物品を使用することもあるが、その場合はスタッフ全員に報告し危険防止に努めている。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状態を把握し、事故防止に取り組んでいる。薬は誤薬のないように、声掛け・手渡し・服薬確認をしている。スタッフ・利用者全員で避難訓練を実施している。また、日中は玄関に施錠していないため、出入り確認のために、1階玄関と2階入口にセンサー式メロディチャイムを設置し、チャイムが鳴った場合にはスタッフが確認するようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	緊急時、スタッフが応急手当を行えるように訓練している。	
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	避難訓練は消防署の指導のもとにスタッフ・利用者全員で行っている。防災用品も常備している。	
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	定期的に、利用者の状態・起こりうるリスクについてを家族に報告し、その対応策等を話し合い、実践するようにしている。	
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	毎日バイタルチェックをし、利用者の体調の変化に気をつけている。変化に気付いた時には、職員が情報を共有できるように状態・対応策を口頭にて説明し、連絡ノート及び医療ノートに記録している。	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	薬が変わった時などは、連絡ノート及び医療ノートに記入し申し送りをしている。また、薬の内容等をスタッフがいつでも確認できるように薬局から出される処方内容の記載用紙を保管している。	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	ラジオ体操や散歩などの運動をする、食物繊維の多いものや牛乳・ヨーグルトを摂って頂く、水分をできるだけ多くとってもらう等の工夫をしている。	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	夕食後、個々の利用者に合わせて口腔状態や力に応じた支援をしている。毎食後、口腔ケアが必要な方・習慣のある方には、その都度支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量・水分摂取量のチェックを行っている。一回の摂取量の少ない方には、食事回数や水分摂取回数を増やしている。	○ 嚥下障害がある利用者には、嚥下しやすい食事(刻み食・ミキサー食)を提供している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、実行している。毎朝、手すり・ドアノブの消毒を行い、清掃用のチェックシートに毎日チェックしている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎晩、夜勤者が布きんや調理器具の消毒・台所の清掃を行っている。冷蔵庫内もアルコール消毒を月1回行っている。食材は、週に3回程度、利用者と共に買い物へ行き調達している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	手作りの看板を掛けたり、花壇に花を植えたりしている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(玄関・リビングなど)に季節の花や壁飾りを飾ったり、行事などの写真を飾ったりして、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。また、TVなどの音量を利用者の要望に合わせて調節する・日差しの強い時はレースのカーテンを引くなど、利用者にとって不快になるような音や光がないように配慮している。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の外にベンチを、入口付近に椅子やテーブルを置いている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へは、本人が使い慣れた家具や寝具などを持ち込んで頂き、今までの生活とのギャップを最少限にするよう配慮している。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓の開閉や室内の温度調節をこまめに行っている。	○	エアコンの風を嫌がる利用者があるので、直接風の当たりやすいフローアのエアコンに羽根をつけた。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロー内・トイレ・階段・浴室に手すりを設置しており、安全に自立した生活が送れるように配慮している。	○	利用者が入浴しやすいように、浴槽の手すりを設置した。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	アセスメントによりできること・できないことを確認し、ケアプランに沿って、できるだけ自立して暮らせるように支援している。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇に季節の花を植えたり、庭で野菜を作り収穫したりしている。 日中、ベランダ出入り口の施錠はしていないので、利用者が自由に出入りし、洗濯物を干したり取り込んだりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個々の利用者のペースに合わせて過ごせるように支援している。

特に家事をしたいという利用者が多いので、調理・配膳・後片付け・掃除・洗濯等様々なことを利用者と一緒にやっている。  
また、利用者がいつも笑顔でいられるように、スタッフが一緒にゆっくりと話をする時間を多くできるように取り組んでいる。